

重点目標「主体的に考え課題解決を図る子どもの育成」の意味

昨年度は、重点目標を「元気に挨拶をする子どもの育成」として、教育活動に取り組んだ。その成果として、よりよく生活しようとする気力に高まりが見られるとともに、落ち着いて学習に取り組む姿や学年に応じた基礎的な学力の定着を図ることができた。

しかし、課題として、未だ、主体性や思考力・判断力・表現力等の育成に不十分な面が見られる。さらに、子どもたち同士が進んでコミュニケーションをとり、主体的に協力して自他を高め合う学習をつくる必要がある。

この課題を解決し学校の教育目標を達成するために、重点目標を「主体的に考え課題解決を図る子どもの育成」とする。現行の学習指導要領の改訂にあたっては、「生きる力」の育成のために、児童生徒一人一人が、社会の変化に主体的に関わり多様な他者と協働しながら、よりよい社会・人生・未来の創り手となるために必要な力を育むことを目指している。特に、ここにある「社会の変化への主体的な関わり」は、本校の課題解決のために重視すべき内容である。

「主体的」とは、自分の意思・判断で行動する様を意味する。単に「〇〇したいから〇〇する」という欲からの行動ではなく、よりよい成果を得るために、他の人からの指示・強制によらず、自分の意思で行動することを指す。

「主体的に考え課題解決を図る」とは、生きる力の育成に向かうための意欲と明確な目的意識をもち、適確な状況の分析、結果の予測、内容と方法の設定等のもと、自分自身の意思に基づいた判断により課題の解決に取り組むことである。本校の児童生徒の実態を振り返ると、落ち着いた態度で学習に取り組むことができるが、ときには、活動の目的意識がはっきりとしておらず周りの人の考えに流される場面がある。また、達成の喜びが次の活動の意欲へと十分に結びついていないと言いがたい。

そこで、子どもたちが目的意識をもち、課題に対する自分の考えをつくって学習活動を行い、学習後には達成感を味わって次の学習に臨んでいくような一連の教育活動を実践していく。

そのために、本年度の重点目標の達成のための指導と見とりの観点として、3つを設定する。

重点目標達成のための指導と見とりの3つの観点

- ① 学習活動に対し、明確な目的意識をもっているか。……………(目的意識)
- ② 課題に対する自分の考えをもっているか。……………(自分の考え)
- ③ 学習過程を振り返り、十分な達成感を得ているか。……………(達成感)

以上のように、「主体的に考え課題解決を図る子どもの育成」を重点目標として設定し、3つの観点（目的意識、自分の考え、達成感）から重点目標の進捗状況を見とりながら、教育活動を実施・改善していくことで、本校の課題を解決し学校教育目標の達成に迫ることができると考える。